

平成29年度 第2回函南町立図書館協議会 議事録

1 日 時 平成30年3月14日(水) 15時～16時30分
2 会 場 函南町立図書館 2階 研修室
3 出席者 会長 石田 和久 学識経験者
副会長 稲葉 優子 家庭教育活動者
委員 齋藤 修 学校教育関係者
富永 和彦 学識経験者
今泉 良三 社会教育関係者
榎本 政夫 社会教育関係者
山崎 智一 学校教育関係者

事務局 大沼 裕幸
牧野 満枝

4 公開・非公開 公開
の 別

5 傍聴人の数 0人

6 内 容

- 1 開会
- 2 大沼裕幸 生涯学習課長兼図書館長 挨拶
- 3 報告事項 (1)に係る4件を合わせて事務局より説明
(1) 平成29年度事業報告
 - ・平成29年度図書館の利用状況について
 - ・平成29年度実施事業について
 - ・平成29年度蔵書点検結果について
 - ・読書記録ノートについて

各委員から出されたご意見

議長 利用状況については、平成28年度と比較して平成29年度は利用者、利用冊数共に下がっているとの説明がありました。主たる原因としてはどのように捉えているか。

事務局 全国的な傾向、また近隣図書館の状況、学校司書との連絡会での学校の図書館利用状況など総合的に捉えて、図書館利用状況は、どこでも下降傾向にあると感じている。5年目を迎え同じ事業を行っていることもありますが、先ほどの説明の中にもあったとおり、幼児の読書推進としての新規事業である幼稚園親子図書館見学会の開催、ワークショップを開催し、福祉施設への出張読み聞かせ、学童保育所への出張読み聞かせなど、新たな試みも行っている中で前年度比利用者減である。

議長 様々な現場においても、読書離れの傾向が言われているところではある。

事務局 異なった視点で取り入れた事例で漫画の導入があります。以前図書館協議会

の委員さんからも漫画導入のご意見がありました。漫画は、多種多様であり選書の判断基準もむずかしく、今まではあまり入れていなかったところです。漫画に分類されてはいるのですが、ベストセラー本を漫画としてわかりやすく書いたような一般書、例えば「漫画君たちはどう生きるか」などは導入を始めています。

委員長 多種多様な機関とも組織連携しながら、新しい試みを実施されている。そのような事柄が、いずれ花開いていくのだと感ずる。

事務局 現在の事業で実施している、福祉施設や学童保育所への出張読み聞かせなどの参加者は、1回50人以上ではあるが、図書館内で実施していないため、利用者カウントはされていない。しかし、地道な読書推進活動がいずれ図書館の利用者になっていくと考えている。

委員 来年度以降の図書館利用者見込みは、どのように捉えているか。

事務局 利用者数が、多く伸びることは予想していない。しかし、来年度事業においても、新規な取り組みは行っていく。今年度、新規事業として始めた幼稚園親子図書館見学会の開催は、保育園にも拡大して実施する。また、福祉施設への出張読み聞かせ、学童への出張読み聞かせの際にも出張貸出の実施、学童の子供たちの長期休暇中の学校図書館利用などを考えている。いろいろなことを実施しながら、読書推進を進めていきたいと考えている。

委員 新規事業として始めた「ふるさとエッセイ」の募集・展示の報告があり、いずれは、「函南文芸」の発行につなげたいとのことでした。近隣の三島、清水町等には、文芸雑誌がある。函南文化協会には、75の団体がある中、文芸関係は、2団体しかない。周辺市町と比較しても少ない状況である。函南の文芸関係が少し弱いと日頃から感じている。今回の事業を継続しながらさらに発展させていってもらいたいと期待する。

事務局 初年度だったので、応募数もまだ少ない状況ではあるが、回数を重ねながら、内容を充実させていきたいと考えている。

委員 継続実施している桑村・丹那小学校への出張貸出事業、学童保育園への出張読み聞かせは、図書館から積極的に外へ出かけていく事業として良いと思う。さらに、今年初めて開催した幼稚園親子図書館見学会は、良かった。常に図書館を利用している子どもたちは、恵まれた環境にある。来たくても来られない子どもたちもたくさんいる中、全園児親子を対象としたことは、図書館に来る機会を平等に得られる大変良い事業だと思う。来年は保育園にも拡大実施されてさらに充実されると感じている。ここに来れば、子育てなどの情報交換も得られて、若い世代の親御さんの子育て支援につながると思う。

漫画の導入であるが、以前本屋大賞を受賞した「神様のカルテ」の漫画版を読んだ。素晴らしい内容であった。また、手塚治虫、ドラえもん、古典、歴史漫画なども良いと思う。漫画コーナーなどを作っても良いと思う。

委員 ICタグ、バーコードの貼る位置を注意してもらいたい。絵本の表紙、裏表紙の絵の正面中央部に貼られたものがまだたくさんある。変更してもらいたい。

事務局 よくわかりました。

委員 現在の図書館サービスは、予約本の貸サービスなど、きめ細かくされていて、大変良いと感じている。読書記録ノートについてですが、各学校が今後どのように使用していくのかについては、協議していく必要があるし、利用していくにあたり、形骸化してはいけない。どのような利用方法を考えているのか。

事務局 読書記録ノートは、単に本を読むだけでなく、読んだことから主体的に情報として処理していく。自分の学んだことをアウトプットしていくことが大切である。というねらいがある。一過性ではなく継続利用が大切であるという意見を教育長、学校からももらっている。小学校1年生から中学3年生まで継続した利用となっている。また、図書館では、全世代の読書推進も行っていることから、一般の方向けにも、図書館ホームページからダウンロードできる「読書記録ノート」を発信していく予定である。一般の方向けには、図書館に現在あるシール機を利用できる様式となっている。

学校とは、「読書記録ノート」を利用し、本をたくさん読んだ子の表彰など考えている。今後も学校・PTAの方たちからも意見をいただきながら活用方法について考えていきたい。

委員 「読書記録ノート」は、何冊くらい書けるのか。

事務局 小学校低学年用200冊、高学年用200冊、中学生用400冊となっている。また、2穴のリングファイルになっているので、随時ページを増やしていくこともできる。また、各小中学校ごとに、学年別のおすすめ本を選定してもらおうことになっている。子供たちには、そちらにもチャレンジしてもらいたい。

委員 「読書記録ノート」は、よい取り組みだと思う。子どもたちには、強制ではなく、自由に利用してもらいたい。自分では、独自に読書記録ノートを使用している。図書館のシール機を利用すると簡単に作成でき、読んだ本の記録を残すことは、達成感にもつながる。大人もぜひ利用してもらいたい。

委員 BDS、「読書記録ノート」は、よい取り組みだと思う。コストについてはどうか。ノートの作成によって、図書館予算が圧迫され、蔵書購入が減ってしまうことを危惧する。費用対効果は、どうなっているのか。

事務局 BDSについては、5年間リースがここで終了し、これからの5年間は、同じものを再利用するため、コストはかからない。「読書記録ノート」は、本年度新規のため、図書館予算にて作成しているが、来年度以後は、教育長、学校と相談し、現在持っている子どもたちは、継続利用。新入生は、ファイルのみ学年費を利用し購入。記録ノート部分は、学校で印刷して、ファイリングする予定である。

委員 シール機は、こども図書館内にもあるのか。また、子供たちの利用はあるのか。

事務局 シール機は、こども図書館内にもあります。また、子供たちも多く利用している。

委員 子供たちはゲーム感覚で利用できるもので、読書記録ノートにも利用できて良いことだと思う。

事務局 「読書記録ノート」は、いろいろな利用の仕方があると思っている。自分

の思いを記録することが大切であると考えているので、少しずつ良いものにしていきたい。

今年度の資料購入点数ですが、1月末時点で4,353冊。今年度末には、当初予定通りの5,000冊は突破することになる。

委員 蔵書の選定には、新聞書評などを参考に選書するのか。

事務局 図書館では、図書の選定に、図書館流通センターから、選書するための本が毎週届く。新刊本、図書館にお勧めの本が類ごとに載っている。図書館職員は、各担当がその本の中から本を選書していく。また、図書館流通センターは、図書館に入れる本の書誌データ送付、本の装備を行って図書館に納品する。地域資料リクエスト本などは、図書館独自で書誌データを作成し、本の装備も行うこととなる。

委員 絵本は古くても、利用が少なくても、読み聞かせで使用したいものがある。除籍する時に、読み聞かせグループに声をかけていただけるとうれしい。

事務局 来年度の蔵書点検の際には、ご意見のあったようにしていきたい。

4 協議事項 (1) 平成29年度事業計画(案)について事務局より説明

事務局より趣旨の説明

事務局 平成30年度の事業計画は、基本的には昨年度実施してきた事業は継続しつつ、内容を充実させていく。平成30年度新たに実施予定の事業は、「第三次函南町子どもの読書活動推進計画」改定年となるため、図書館協議会の開催回数を年間3回に増やし、皆様に協議していただきたい。合わせて読書推進のためのポスター等を夏休みに募集し、秋の読書週間において表彰・展示等行いたい。ご協力をお願いしたい。

また、幼稚園親子図書館見学会は、保育園にも拡大して実施する。保育園においては、保護者の参加は強制しない。子育てふれあい・地域交流センターとは、年間にわたり連携した事業を行っていくが、新たに福祉課や福祉施設とも連携した事業を行っていく。エッセイの募集・展示も継続実施する。新学習指導要領が2020年完全実施されることから、図書館においても英語の絵本を充実させて欲しいというお話を学校からもいただいており、現在図書館に268点の英語絵本等あるので、さらに充実させつつ、学校への団体貸し出し等に紹介していきたいと考えている。また、読み聞かせも、幼児対象だけでなく、もう少し大きい子を対象としたおはなし会を年間4回計画しており、その中には、英語の絵本等も取り入れていく計画である。

各委員から出されたご意見

議長 2020年度から新学習指導要領が完全実施となることから、英語絵本などを増やしていくということでした。学校現場からお話したい

委員 図書館と学校教育は、多いに関係があるので、お話したい。学校も変化の時を迎えるが、図書館も変化の時だと感ずる。学校現場では、移行期の2年間で大幅に外国語等授業時数を確保しないとならない。また、教材研究等に教師の時間も確保しなければならない。授業時数増と共に、学校に要請されている課題は非常に多い。図書館と学校の連携事業も今までのままではいられないと感ずる。学校も全ての行事の見直しと精選を図っている。新学習指導要領に

即した連携事業を提案願いたい。英語を取り入れたワークショップの企画等一緒にやってもらいたいと考えている。

議長 学校現場の話は、背景として認識していただければと思う。函南町は、ALTの招へいを早くから行っている。英語の昔話の読み聞かせなどは、ALTと日本語教師とで行ってきた。図書館でも英語の読み聞かせなど、取り入れていただきたい。

委員 年間4回実施すると話のあった大きい子対象のおはなし会は、どの程度の年齢を対象とするのか。

事務局 現在のおはなし会は、対象が幼児であるが、小中学生を対象としたもう少し長い本の読み聞かせ会を考えている。

委員 私達読書アドバイザーの意見ですが、大人の読み聞かせ会の開催を行いたいと考えている。図書館の開館時間の長い水曜日の夜に開催してはどうか。

事務局 以前多目的室を使用した「ことのはサークル」の朗読劇があった。大変良かった。

委員 熱海市で行われる朗読会があるが、函南のグループ多数参加している。発表の場があるのは良いことだと思う。また、年齢が進むと、本は好きだが目が疲れるので朗読が良い。との意見もある。

事務局 図書館には、朗読CDが264点あるが、その存在を知らない方達がたくさんいると感ずる。今後積極的に周知していく必要がある。

委員 地域サロンなどでも、朗読劇などを行っている。サークルの方達にも発表の場が必要であると思うので、お互いうまくやっていくと良い。

委員 おはなし会サークルの中でも、英語絵本の読み聞かせも入れていこう。という話が出ている。時代の流れだと感ずる。

委員 英語を使える方の人材について、学校と図書館とで情報共有していきたい。

議長 来年度は、図書館協議会が3回になるので、委員の皆さんよろしく願いたい。

事務局 「函南町子どもの読書活動推進計画」については、二次作成時には、図書館が開館したことを受けて大きく変化したので、外部の委員さんに意見をいただきながら作成した。今回は、大きな変化がないながらも、新学習指導要領改訂による図書館と学校の連携の仕方など変更点を盛り込む内容はある。図書館と学校司書等と連携しながら素案づくりをしていく。皆様にはご意見よろしく願いたい。

5 閉会

事務局 平成30年度の第1回目の協議会は5月の下旬頃を予定しております。

日程が決まりましたら改めて通知させていただきますので、よろしく願い致します。